

犬山祭 熊野町 住吉臺

平成 18 年 3 月

住吉修復



記録 末松良一

名古屋の奥座敷犬山に



370余年続く犬山祭

尾張名所図絵より



尾張年中行事絵抄より

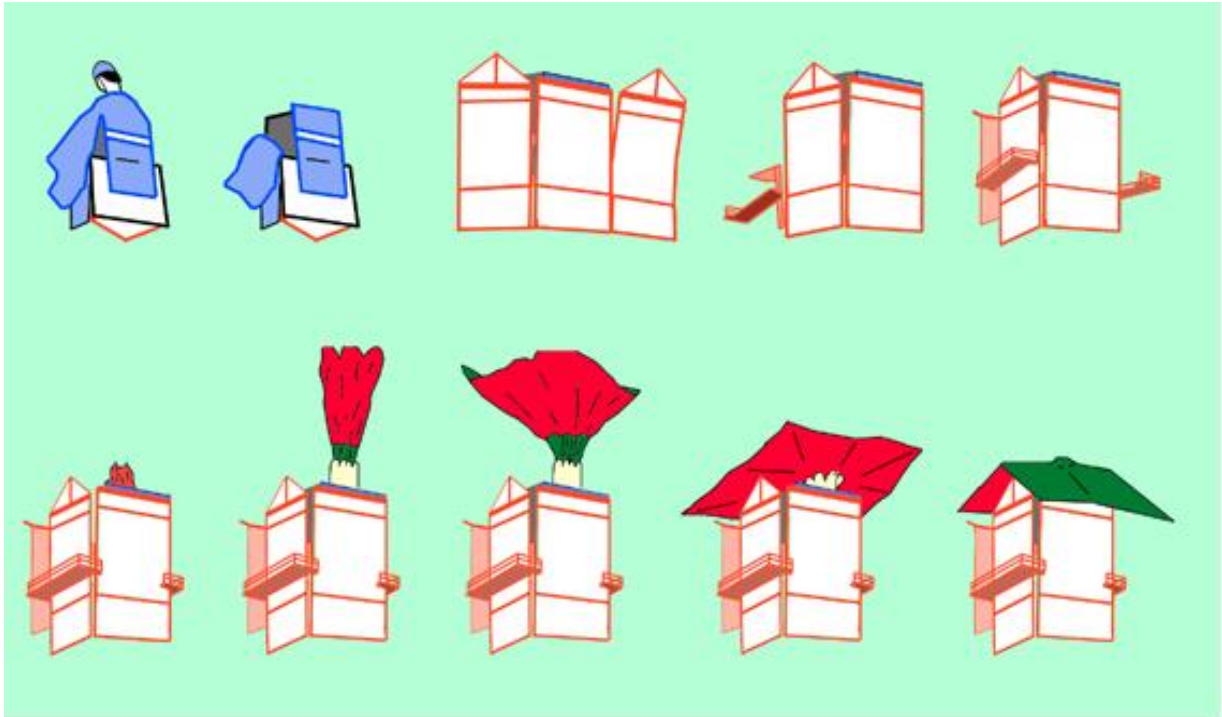
竹田からくりの引札



竹田からくりの演目を山車からくりとして今に伝える。



変身からくり 人形があつという間に神社に変わる



高度な折り畳み技術が数百年前から伝えられてきた
折畳み傘、太陽電池パネルなどの折畳み技術にも無関係とはいえない。



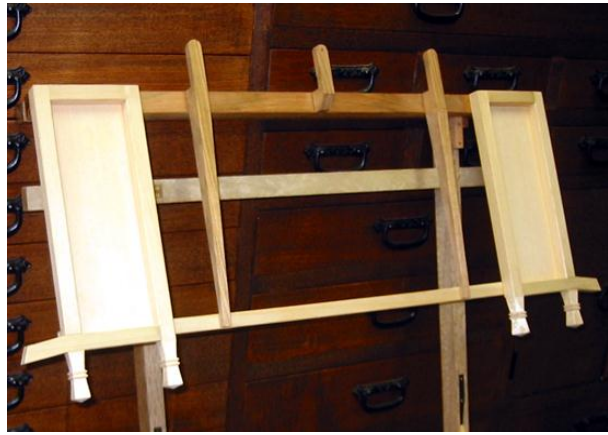
先代の白楽天人形（清川喜男氏作）

2005年10月愛知万博も終り、九代目玉屋庄兵衛による白楽天人形、住吉人形の修復作業が本格的に始った。



通常人形の修復は、依頼先の町内の人々が永年使用した人形そのままの面だちで彫られるものであるが、熊野町の要望により、これまでと趣きが異なる新しい白楽天人形、住吉人形のかしらが創られた。





反橋と社欄干の修復も着々と進められた。

先々代の人形かしらと新調されたかしら



白楽天：厳かに、凛々しく



平成 18 年 2 月 玉屋工房にて



仕上げ、調整作業に入る

平成 18 年 3 月 修復完成



完成した白楽天人形（右）と住吉人形（左）



変身した住吉神社と反橋





人形装束を整える九代目



箱書きを一気に書き上げるお父さん、見守る一樹君

平成 18 年 3 月 12 日 修復完成式・修祓式



針綱神社の宮司により人形に魂が入れられた。



九代目の玉串奉奠（たまぐしほうてん）

犬山祭（第372回）の晴れ姿



針綱神社にからくり奉納





針綱神社前のお祭り広場で完璧なからくり実演が披露され、
見事な変身技に観客の盛大な拍手を受けた。

犬山祭 熊野町住吉臺の意義

(1) 能楽「白楽天」をからくり

唐の都長安（今の西安）から、日本の知力の偵察を命じられた白楽天は、はるばる 2000 キロ以上の陸路、海を超えて九州の海辺に到着し、漁夫にであった。大詩人「白楽天」を迎えたのは、漁夫に扮した和歌の神、住吉明神。白楽天の歌問答に、見事な和歌で返す。すると神風が起き、白楽天の船を中国へ追い返したという。この物語りをからくり演目にしたのが、竹田からくり芝居である。

(2) 竹田からくり芝居を今に伝える

竹田からくりの引札に、漁夫が住吉神社の景色に変わり、白楽天が衣傘に変身する演目が紹介されている。（3 ページ上の図）
からくり人形を庶民に浸透させた竹田からくりを、山車からくりとして現代の我々に伝える意味は大きい。

(3) 一瞬の変身技：折畳み技術

住吉人形が、僅か十秒程で住吉神社に変身する技は、見事である。
折紙と並んで、日本の折畳み技術の礎的存在である。

(4) そして、次世代へ

今回、九代目玉屋庄兵衛により完全修復され、次の 100 年への伝承が確保されたことは、多くの次世代の若者らがその演技を目にすることであり、日本のモノづくり力の持続的育成に貢献するものである。